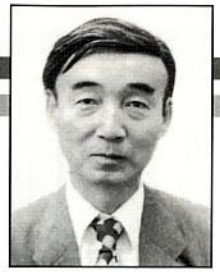
甲状腺に異常のある時に受ける検査



日本臨床検査医会
中井　利昭

甲状腺の働きについて

甲状腺は、蝶が羽を開いたような形で気管に付いています。ここで、血液から取り込んだヨードを原料に甲状腺ホルモンが作られています。甲状腺ホルモンは、全身の新陳代謝を促進させる重要な働きがあります。

甲状腺の病気の場合、殆ど、甲状腺が〝はれ〟ます。これを甲状腺腫といい以下のように大別されます。

①単純性びまん性甲状腺腫

甲状腺が大きくなっているが、異常のないもの。

②バセドウ病

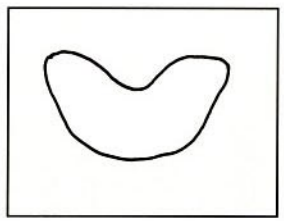
甲状腺機能亢進症の大部分は、バセドウ病です。バセドウ病は、主に自己免疫異常により、血中に甲状腺を過剰に刺激する抗体が出現し、甲状腺ホルモン過剰（臨床症状として、手のふるえ、脈が速くなる、発汗、動悸）や甲状腺腫、眼球突出が起こります。検査は、血液検査を行います。甲状腺刺激ホルモン（TSH）、甲状腺ホルモン（FT3、FT4）、TSHレセプター抗体（TRab）。

③慢性甲状腺炎

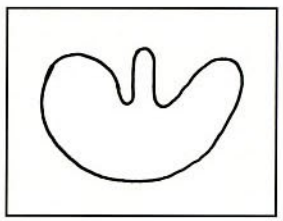
橋本病ともいいます。甲状腺ホルモンは正常範囲のことが多いので、ほとんどの人は、甲状腺腫のみが症状です。ただし、甲状腺ホルモンが低下する場合もあり、易疲労感、便秘、寒がり、精神活動低下、高コレステロール血症になることがあります。検査は、血液検査を行います。甲状腺刺激ホルモン（TSH）、甲状腺ホルモン（FT3、FT4）、抗マイクロゾーム抗体、抗サイログロブリン抗体。

④結節性甲状腺腫

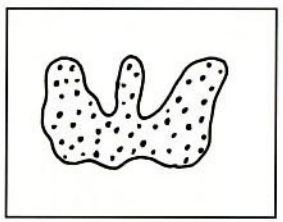
甲状腺に腫瘍ができ、部分的にはれるもの。甲状腺ホルモンは、ほとんどの場合、正常範囲なので、甲状腺の部分的な〝はれ〟以外の症状はないのです。良性と悪性のものがありますが、例え、悪性であっても、ほとんどの腫瘍が、進行の非常に遅い性質を持っており、手術で完治します。検査は、腫瘍が、悪性の〝がん〟でないことを確かめることが、最も重要で、超音波や細胞診などの画像診断が中心になります。



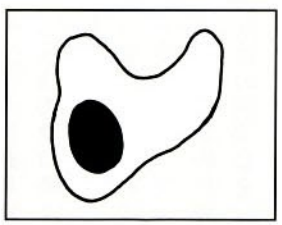
①単純性びまん性甲状腺腫



②バセドウ病



③慢性甲状腺炎



④結節性甲状腺腫